

(様式第 10)

北里病発第 28-97 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北里研究所
理事長 小林 弘祐 (印)

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話(042) 778 - 8111
--	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
1 内分泌・代謝内科 2 腎臓内科 3 血液内科 4 リウマチ科 5 感染症内科 6 アレルギー科 7 消化器内科 8 循環器内科 9 呼吸器内科 10 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 乳腺・内分泌外科 3 小児外科 4 呼吸器外科 5 心臓血管外科 6 心臓外科 7 血管外科 8 小児心臓血管外科 9 形成外科 10 美容外科 11 頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0 床	0 床	0 床	0 床	1,033床	1,033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	589人	99人	605.3人	看 護 補 助 者	92人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	3人	2.8人	理 学 療 法 士	21人	臨 床 検 査 技 師	131人
薬 剤 師	86人	4人	88.8人	作 業 療 法 士	7人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	16人	0人	16人	視 能 訓 練 士	15人	そ の 他	0人
助 産 師	50人	0人	50人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	1288人	21人	1298.3人	臨 床 工 学 士	40人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	15人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	1人	そ の 他 の 技 術 員	4人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	234人
管理栄養士	27人	0人	27人	診 療 放 射 線 技 師	82人	そ の 他 の 職 員	116人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	47人	眼 科 専 門 医	15人
外 科 専 門 医	49人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	1人	放 射 線 科 専 門 医	11人
小 児 科 専 門 医	15人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	24人
泌 尿 器 科 専 門 医	14人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	14人
		合 計	254人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (海野 信也) 任命年月日 平成27年7月1日

リスクマネジメント委員会の構成員としての業務に従事

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
① 1日当たり平均入院患者数	829人	0人	829人
② 1日当たり平均外来患者数	2947.7人	29.8人	2977.5人
③ 1日当たり平均調剤数	2037 剤		
④ 必要医師数	252人		
⑤ 必要歯科医師数	1人		
⑥ 必要薬剤師数	28人		
⑦ 必要(准)看護師数	515人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,125m ²	鉄筋コンクリート	病床数	72床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	212.22 m ²	病床数	20床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	67.30 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	228.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	2,952.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	27室	収容定員	2,248人
図書室	2,127.65m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	19万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	75.2%	逆紹介率	41.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	23,490人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,306人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,450人	
	D：初診の患者の数	34,466人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2) 【該当なし】

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4人	56	ベーチェット病	126人
2	筋萎縮性側索硬化症	3人	57	特発性拡張型心筋症	189人
3	脊髄性筋萎縮症	0人	58	肥大型心筋症	9人
4	原発性側索硬化症	0人	59	拘束型心筋症	1人
5	進行性核上性麻痺	7人	60	再生不良性貧血	40人
6	パーキンソン病	210人	61	自己免疫性溶血性貧血	1人
7	大脳皮質基底核変性症	7人	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1人
8	ハンチントン病	1人	63	特発性血小板減少性紫斑病	129人
9	神経有棘赤血球症	0人	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2人
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0人	65	原発性免疫不全症候群	4人
11	重症筋無力症	167人	66	IgA腎症	17人
12	先天性筋無力症候群	0人	67	多発性嚢胞腎	17人
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	109人	68	黄色靱帯骨化症	9人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	16人	69	後縦靱帯骨化症	72人
15	封入体筋炎	0人	70	広範脊柱管狭窄症	5人
16	クロウ・深瀬症候群	1人	71	特発性大腿骨頭壊死症	116人
17	多系統萎縮症	19人	72	下垂体性ADH分泌異常症	12人
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0人
19	ライソゾーム病	4人	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5人
20	副腎白質ジストロフィー	0人	75	クッシング病	3人
21	ミトコンドリア病	13人	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0人
22	もやもや病	81人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24人
23	プリオン病	0人	78	下垂体前葉機能低下症	83人
24	亜急性硬化性全脳炎	0人	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
25	進行性多巣性白質脳症	0人	80	甲状腺ホルモン不応症	0人
26	HTLV-1関連脊髄症	1人	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0人
27	特発性基底核石灰化症	0人	82	先天性副腎低形成症	2人
28	全身性アミロイドーシス	5人	83	アジソン病	1人
29	ウルリッヒ病	0人	84	サルコイドーシス	79人
30	遠位型ミオパチー	1人	85	特発性間質性肺炎	40人
31	ペスレムミオパチー	0人	86	肺動脈性肺高血圧症	17人
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0人	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0人
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	1人	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9人
34	神経線維腫症	17人	89	リンパ脈管筋腫症	1人
35	天疱瘡	54人	90	網膜色素変性症	36人
36	表皮水疱症	2人	91	バッド・キアリ症候群	2人
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5人	92	特発性門脈圧亢進症	1人
38	ステイヴンス・ジョンソン症候群	0人	93	原発性胆汁性肝硬変	69人
39	中毒性表皮壊死症	1人	94	原発性硬化性胆管炎	2人
40	高安動脈炎	38人	95	自己免疫性肝炎	8人
41	巨細胞性動脈炎	3人	96	クローン病	283人
42	結節性多発動脈炎	25人	97	潰瘍性大腸炎	645人
43	顕微鏡的多発血管炎	53人	98	好酸球性消化管疾患	0人
44	多発血管炎性肉芽腫症	17人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2人
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0人
46	悪性関節リウマチ	27人	101	腸管神経節細胞減少症	0人
47	パージャー病	21人	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0人
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0人	103	CFC症候群	0人
49	全身性エリテマトーデス	590人	104	コステロ症候群	0人
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	185人	105	チャージ症候群	1人
51	全身性強皮症	223人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0人
52	混合性結合組織病	87人	107	全身型若年性特発性関節炎	5人
53	シェーグレン症候群	20人	108	TNF受容体関連周期性症候群	0人
54	成人ステル病	7人	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0人
55	再発性多発軟骨炎	4人	110	ブラウ症候群	0人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0人	161	家族性良性慢性天疱瘡	1人
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0人	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19人
113	筋ジストロフィー	4人	163	特発性後天性全身性無汗症	0人
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1人	164	眼皮膚白皮症	0人
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1人	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0人
116	アトピー性脊髄炎	0人	166	弾性線維性仮性黄色腫	0人
117	脊髄空洞症	2人	167	マルファン症候群	1人
118	脊髄髄膜瘤	2人	168	エーラス・ダンロス症候群	0人
119	アイザックス症候群	0人	169	メンケス病	0人
120	遺伝性ジストニア	0人	170	オクシピタル・ホーン症候群	0人
121	神経フェリチン症	0人	171	ウィルソン病	0人
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0人	172	低ホスファターゼ症	0人
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0人	173	VATER症候群	0人
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0人	174	那須・ハコラ病	0人
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0人	175	ウィーバー症候群	0人
126	ペリー症候群	0人	176	コフィン・ローリー症候群	0人
127	前頭側頭葉変性症	0人	177	有馬症候群	0人
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0人	178	モワット・ウィルソン症候群	0人
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0人	179	ウィリアムズ症候群	0人
130	先天性無痛無汗症	0人	180	ATR-X症候群	0人
131	アレキサンダー病	0人	181	クルーゾン症候群	0人
132	先天性核上性球麻痺	0人	182	アペール症候群	0人
133	メビウス症候群	0人	183	ファイファー症候群	0人
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1人	184	アントレー・ピクスラー症候群	0人
135	アイカルディ症候群	0人	185	コフィン・シリス症候群	0人
136	片側巨脳症	0人	186	ロスマンド・トムソン症候群	0人
137	限局性皮質異形成	0人	187	歌舞伎症候群	0人
138	神経細胞移動異常症	0人	188	多脾症候群	2人
139	先天性大脳白質形成不全症	0人	189	無脾症候群	0人
140	ドラベ症候群	0人	190	鰓耳腎症候群	0人
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0人	191	ウェルナー症候群	0人
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0人	192	コケイン症候群	0人
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0人	193	プラダー・ウィリ症候群	6人
144	レノックス・ガストー症候群	0人	194	ソトス症候群	0人
145	ウエスト症候群	7人	195	ヌーナン症候群	0人
146	大田原症候群	0人	196	ヤング・シンプソン症候群	0人
147	早期ミオクロニー脳症	0人	197	1p36欠失症候群	0人
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0人	198	4p欠失症候群	0人
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0人	199	5p欠失症候群	0人
150	環状20番染色体症候群	0人	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0人
151	ラスムッセン脳炎	0人	201	アンジェルマン症候群	0人
152	PCDH19関連症候群	0人	202	スミス・マギニス症候群	0人
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0人	203	22q11.2欠失症候群	1人
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0人	204	エマヌエル症候群	0人
155	ランドウ・クレフナー症候群	0人	205	脆弱X症候群関連疾患	0人
156	レット症候群	0人	206	脆弱X症候群	0人
157	スタージ・ウェーバー症候群	1人	207	総動脈幹遺残症	0人
158	結節性硬化症	3人	208	修正大血管転位症	2人
159	色素性乾皮症	0人	209	完全大血管転位症	3人
160	先天性魚鱗癬	0人	210	単心室症	2人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2人	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0人
212	三尖弁閉鎖症	5人	260	シトステロール血症	0人
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3人	261	タンジール病	0人
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	4人	262	原発性高カイロミクロン血症	0人
215	ファロー四徴症	21人	263	脳腫黄色腫症	0人
216	両大血管右室起始症	20人	264	無βリポタンパク血症	0人
217	エプスタイン病	0人	265	脂肪萎縮症	0人
218	アルポート症候群	0人	266	家族性地中海熱	2人
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0人	267	高IgD症候群	0人
220	急速進行性糸球体腎炎	0人	268	中條・西村症候群	0人
221	抗糸球体基底膜腎炎	0人	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1人
222	一次性ネフローゼ症候群	19人	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0人
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2人	271	強直性脊椎炎	3人
224	紫斑病性腎炎	3人	272	進行性骨化性線維異形成症	0人
225	先天性腎性尿崩症	1人	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0人
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0人	274	骨形成不全症	1人
227	オスラー病	0人	275	タナトフォリック骨異形成症	0人
228	閉塞性細気管支炎	1人	276	軟骨無形成症	0人
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0人	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	2人
230	肺胞低換気症候群	0人	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0人
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0人	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0人
232	カーニー複合	0人	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0人
233	ウォルフラム症候群	0人	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0人
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0人	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0人
235	副甲状腺機能低下症	0人	283	後天性赤芽球癆	1人
236	偽性副甲状腺機能低下症	0人	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0人
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0人	285	ファンconi貧血	0人
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0人	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0人
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0人	287	エプスタイン症候群	0人
240	フェニルケトン尿症	0人	288	自己免疫性出血病XIII	0人
241	高チロシン血症1型	0人	289	クロンカイト・カナダ症候群	0人
242	高チロシン血症2型	0人	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0人
243	高チロシン血症3型	0人	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	3人
244	メーブルシロップ尿症	0人	292	総排泄腔外反症	0人
245	プロピオン酸血症	0人	293	総排泄腔遺残	3人
246	メチルマロン酸血症	0人	294	先天性横隔膜ヘルニア	1人
247	イソ吉草酸血症	0人	295	乳幼児肝巨大血管腫	0人
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0人	296	胆道閉鎖症	9人
249	グルタル酸血症1型	0人	297	アラジール症候群	0人
250	グルタル酸血症2型	0人	298	遺伝性膀胱炎	0人
251	尿素サイクル異常症	0人	299	嚢胞性線維症	0人
252	リジン尿性蛋白不耐症	0人	300	IgG4関連疾患	5人
253	先天性葉酸吸収不全	0人	301	黄斑ジストロフィー	0人
254	ポルフィリン症	0人	302	レーベル遺伝性視神経症	1人
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0人	303	アッシュャー症候群	0人
256	筋型糖原病	0人	304	若年発症型両側性感音難聴	0人
257	肝型糖原病	0人	305	遅発性内リンパ水腫	0人
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0人	306	好酸球性副鼻腔炎	1人

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料一般病棟7対1入院基本料	・特定集中治療室管理料1
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・ハイケアユニット入院医療管理料1・2
・救急医療管理加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児特定集中治療室管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)(新生児)
・診療録管理体制加算1	・小児入院管理料1
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1加算1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・がん拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1・2	・
・データ提出加算2のイ	・
・退院支援加算1・3	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料1・4	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算1・2
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1・2	・大腸CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝学的検査	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・経皮的冠動脈形成術
・難病患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・集団コミュニケーション療法料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経カテーテル大動脈弁置換術
・通院・在宅精神療法	・胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術
・硬膜外自家血注入	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算2	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・磁気による膀胱等刺激法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)	・補助人工心臓
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・経皮的大動脈遮断術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ダメージコントロール手術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・治療的角膜切除術(エキマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に限る))	・腹腔鏡下肝切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・生体部分肝移植術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・網膜再建術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工内耳植込術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・同種死体腎移植術
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)	・生体腎移植術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・膀胱水圧拡張術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清ら伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・人工尿道括約筋植込・置換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・麻酔管理料(I)・(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	小泉 和三郎	消化器内科	3,000,000	補 <input checked="" type="radio"/> 委	AMED
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	堅田 親利	消化器内科	300,000	補 <input checked="" type="radio"/> 委	AMED
治験の実施に関する研究 [モノエタノールアミノレイン酸塩]	日高 央	消化器内科	330,000	補 <input checked="" type="radio"/> 委	公益法人 日本医師会
切除不能肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法 (TACE) とソラフェニブの併用療法第Ⅱ相臨床試験	日高 央	消化器内科	75,000	補 <input checked="" type="radio"/> 委	非営利活動法人 日本肝がん臨床研究機構
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神奈川循環器救急レジストリーの構築—急性重症心筋梗塞の予後改善に向けての対策—	阿古潤哉(分担)	循環器内科	10,000	補 委 文部科学省科学研究助成金
高齢慢性心不全患者に対する包括的心臓リハビリテーションは認知機能低下を予防する	東條美奈子(主)	循環器内科	4,680,000	補 委 文部科学省科学研究助成金
循環器病の地域医療連携のモデル化に関する研究	東條美奈子(分担)	循環器内科	700,000	補 委 文部科学省科学研究助成金
慢性疾患の重症化予防を目指した先進的疾病管理システムの有効性に関する研究	東條美奈子(分担)	循環器内科	4,478,000	補 委 文部科学省科学研究助成金
新たな骨格筋電気刺激法は心不全で入院した後期高齢者の運動機能低下を予防する	東條美奈子(分担)	循環器内科	4,000,000	補 委 日本心臓財団・日循協 臨床疫学研究助成
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計 5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
p40phoxsiRNAによる好中球NET放出抑制が全身性エリテマトーデス(SLE)の進展に与える治療効果	竹内康雄	腎臓内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会基盤(C)
新規作成マウスネフリン障害巣状糸球体硬化症モデルにおける糸球体前駆細胞の解析	内藤正吉	腎臓内科	3,100,000	補 委	平成27年度科学研究費
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	西山和利	神経内科学	700,000	補 委 厚生労働科学研究費委託費
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診断システムの整備を行う臨床研究	飯塚高浩	神経内科学	150,000	補 委 厚生労働科学研究費委託費
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000	補	厚生労働省
免疫抑制剤の効果的な併用による難治性膠原病治療プロトコル作成のための研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	1,500,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
中枢神経ループスにおける脳血液関門障害の機序の解析	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	1,500,000	補	文部科学省
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
一酸化窒素・水素ガス吸入によるARDS軽減効果の解析	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	700,000	補 委	文科省
虚血再灌流治療後の有害事象を軽減し健康寿命を延ばすための一酸化窒素・水素混合ガスの吸入ガス吸入治療法の開発研究	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	24,000,000	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温と水素吸入ガス併用療法の効果に関する研究	小林弘祐(香川大学 日下隆 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	50,000	補 委	文科省
水素・一酸化窒素併用吸入療法に関する研究	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	300,000	補 委	日本ペーリ ンガーインゲ ルハイム(株)
中空糸内径の小さい透析膜からなる小型モジュールの溶質除去特性の検討	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	850,000	補 委	ニプロ(株)
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己毛包幹細胞を用いた末梢神経と脊髄損傷に対する再生医療	天羽康之	医学部皮膚科	2,000,000	補	テルモ科学技術振興財団
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺癌個別最適化医療に資するバイオマーカーと標準的放射線療法の確立に関する臨床的研究	早川 和重	放射線治療科	1,170,000	補 委	学術研究助成 基金助成金
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	早川 和重	放射線治療科	300,000	補 委	国立がん研究 センター研究 開発費
頭皮血管肉腫に対する3Dプリンターを使用した新たな放射線治療の開発	早田 格	放射線治療科	300,000	補 委	北里大学医学 部けやき会助 成金
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	菊池 史郎	外科	700,000	補 委	厚生労働科学研究委託費革新的がん医療実用化研究事業
癌におけるepigenetic治療の可能性とp53経路の関係	山下 継史	外科	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
手術室映像配信システムを用いた医学教育に関する研究	北村 律	心臓血管外科	1,100,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基 盤研究C)
冠動脈血行再建戦略の最適化のための生理学的血流動態シミュレーションシステムの構築.	宮地 鑑	心臓血管外科	1,000,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基盤研 究C)
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
中皮腫における胸腔内治療法の構築及び新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科学	156,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
慢性椎間板性腰痛機序解明と新規薬物治療に関する研究	宮城 正行	整形外科	2,000,000	補委 公益財団法人上原記念生命財団
筋ジストロフィーのエビデンス創出を目的とした臨床研究と体制整備	高相 晶士	整形外科	400,000	補委 国立精神・神経疾患センター
副甲状腺ホルモン(PTH)治療が骨粗鬆症由来の腰痛に及ぼす影響	宮城 正行	整形外科	800,000	補委 公益財団法人骨粗鬆症財団
滑膜由来炎症性メディエーターに着目した前・初期股関節症における疼痛発生機序の解明	福島 健介	整形外科	700,000	補委 公益財団法人股関節研究財団
成長因子アンカーリング型運動器再生シーズの顕在化・育成研究	高相 晶士	整形外科	3,000,000	補委 文部科学省
感染人工関節におけるPCRラテラルフロー法を用いた迅速遺伝子細菌検査法の確立	内山 勝文	整形外科	1,900,000	補委 文部科学省
成長因子固相化技術を応用した革新的骨軟骨移植法の確立	小沼 賢治	整形外科	1,400,000	補委 文部科学省
経皮的脊椎圧迫骨折治療促進シーズの探索	齋藤 亘	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省
高密度コラーゲン材料と多血小板血漿を併用した新たな椎体固定法の開発	井上 玄	整形外科	1,200,000	補委 文部科学省
細菌分子によるマトリックスアンカー機構を応用した骨折治療促進シーズの実用化研究	内田 健太郎	整形外科	1,100,000	補委 文部科学省
高齢者運動器不安定症由来腰痛を惹起する神経侵入制御因子同定と新規治療シーズ探索	宮城 正行	整形外科	1,600,000	補委 文部科学省
細菌分子による宿主細胞外マトリックスの認識機構の解明と薬物シーズの探索・顕在化	内田 健太郎	整形外科	250,000	補委 文部科学省

計 12

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究	伊東恭悟	久留米大学	1,000,000	○	日本医療研究開発機構研究費
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	原 純一	大阪市立総合医療センター	300,000	○	日本医療研究開発機構研究費
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経免疫学的視点による難治性視神経炎の診断基準作成(H27-難治等(難)一般-023)	石川 均	眼科	3,878,000	補 委 平成27年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策)
近赤外分光測定法を用いた、新生児の視覚機能の発達に関する研究	石川 均	眼科	631,696	補 委 科学研究費補助金事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(一般)
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性頭頸部癌に対する腫瘍溶解性センダイウイルスによる治療効果	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	815,544	補	文部科学省
喉頭機能温存手術SCL-CHEP: 音声・嚥下機能改善に向けた基礎研究と臨床応用	中山明仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補	文部科学省
5-アミノレブリン酸による蛍光ナビゲーションは頭頸部癌の切除精度を向上させるか?	宮本俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,600,000	補	文部科学省
喉頭麻痺に対する線維芽細胞増殖因子を徐放させた自家筋膜移植術の検討	永井浩巳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,800,000	補	文部科学省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 4

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膀胱癌における血清蛋白質の網羅的解析と診断スクリーニング法の確立	松本和将	泌尿器科	1,950,000	補 委	文科省
前立腺癌高精度放射線照射別における血中循環腫瘍細胞に関する研究	津村秀康	泌尿器科	1,170,000	補 委	文科省
高精度放射線照射によるEndogenousワクチン効果に関する研究	久保誠	医療衛生学部	50,000	補 委	文科省
マウス腎移植モデルによる抗体関連型拒絶反応と抗CD20モノクローナル	石井大輔	泌尿器科	1,820,000	補 委	文科省
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
「成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究」	恩田貴志	婦人科	5,000,000	補 ○委	国立がん研究センター
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」	恩田貴志	婦人科	1,500,000	補 ○委	AMED
早期子宮頸がんに対する機能温存低浸襲手術の確立に関する研究	恩田貴志	婦人科	1,350,000	補 ○委	AMED
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的実験	恩田貴志	婦人科	1,100,000	補 ○委	AMED
				補 ○委	
				補 ○委	
				補 ○委	
				補 ○委	
				補 ○委	
				補 ○委	

計 4

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
「病理診断の客観化＝数値化モデル」構築と「ITによる病理診断支援システム」開発	原 敦子	病院病理部	2,100,000	補 委	科学研究費助成事業
進行期直腸癌のβ-カテニン/EMT誘導癌幹細胞化による化学・放射線療法の耐性機構	高橋博之	病院病理部	1,820,000	補 委	科学研究費助成事業
子宮癌肉腫のβ-カテニン/上皮間葉転換(EMT)によるがん・肉腫幹細胞化誘導機構の分子メカニズム;病理組織での可視	高橋博之	病院病理部	3,150,000	補 委	北里大学医療系研究科
メタボリック症候群に発生する肝細胞癌を如何に予測するか	大部 誠	病院病理部	500,000	補 委	北里大学医療衛生学部
細胞株を用いた免疫組織染色におけるマルチコントロール試料の作製と標準化	山下 和也	病院病理部	200,000	補 委	NPO法人つくば臨床検査教育・研究センター
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

総合計63

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Naruke A, Azuma M, Takeuchi A, Ishido K, Katada C, Sasaki T, Higuchi K, Tanabe S, Saegusa M, Koizumi W.	消化器内科	Comparison of site-specific gene expression levels in primary tumors and synchronous lymph node metastases in advanced gastric cancer.	Gastric Cancer. 2015.4:18(2):262-70
2	Watanabe A, Kida M, Miyazawa S, Iwai T, Okuwaki K, Kaneko T, Yamauchi H, Takezawa M, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Phase I trial of combination chemotherapy with gemcitabine, cisplatin, and S-1 in patients with advanced biliary tract cancer.	World J Gastroenterol. 2015.5.21:21(19):5979-84
3	Hidaka H, Nakazawa T, Fuji S, Yanagihara M, Minamino T, Takada J, Tanaka Y, Okuwaki Y, Shibuya A,	消化器内科	Early evaluation of response to sorafenib for hepatocellular carcinoma by duplex Doppler ultrasonography.	Hepatol Res. 2015.9:45:976-985
4	Takada J, Hidaka H, Nakazawa T, Kondo M, Numata K, Tanaka K, Matsunaga K, Okuse C, Kobayashi S, Morimoto M, Ohkawa S, Koizumi W.	消化器内科	Modified response evaluation criteria in solid tumors is superior to response evaluation criteria in solid tumors for assessment of responses to sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma.	BMC Res Notes. 2015.10.26:8:609.
5	Ishido K, Higuchi K, Tanabe S, Azuma M, Sasaki T, Katada C, Komori S, Hayakawa K, Hosoda K, Yamashita K, Katada N, Koizumi W.	消化器内科	Chemoradiotherapy for patients with recurrent lymph-node metastasis or local recurrence of gastric cancer after curative gastrectomy.	Jpn J Radiol .2016.1:34(1):35-42

6	Ooka S, Kobayashi K, Kawagishi K, Kodo M, Yokoyama K, Sada M, Tanabe S, Koizumi W.	消化器内科	Roles of Capsule Endoscopy and Single- Balloon Enteroscopy in Diagnosing Unexplained Gastrointestinal Bleeding.	Clin Endosc .2016.1:49(1):56- 60
7	Azuma Mizutomo(Depar tment of Gastroenterolog y, School of Medicine, Kitasato University), Kusano Chika,	消化器内科	Future potential of EUS in the upper gastrointestinal tract: Diagnostic potential of endoscopic ultrasonography- elastography for gastric submucosal tumors	Digestive Endoscopy.2015.4: 27Suppl.1 23
8	Yamauchi H, Kida M, Imaizumi H, Okuwaki K, Miyazawa S, Iwai T, Koizumi W.	消化器内科	Innovations and techniques for balloon- enteroscopy-assisted endoscopic retrograde cholangiopancreatography in patients with altered gastrointestinal anatomy.	World J Gastroenterol. 2015.6.7:21(21):64 60-69
9	Hidaka H, Ohbu M, Nakazawa T, Matsumoto T, Shibuya A, Koizumi W.	消化器内科	Peliosis hepatis disseminated rapidly throughout the liver in a patient with prostate cancer: a case report.	J Med Case Rep. 2015 Sep 12;9(1)
10	Kida M, Yamauchi H, Okuwaki K, Miyazawa S, Imaizumi H, Iwai T, Koizumi W.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided choledochojejunostomy with a forward- viewing echoendoscope for severe benign bilioenteric stricture in a patient with Child's resection.	Endoscopy. 2015:47 Suppl 1:E303-4.
11	Matsumoto T, Okuwaki K, Kida M, Jiang SX, Imaizumi H, Yamauchi H, Miyazawa S, Iwai T, Takezawa M, Tajima H, Koizumi W.	消化器内科	A Patient with Pancreatic Castleman's Disease Arising around the Main Pancreatic Duct.	Intern Med.2015;54(16)::2 007-12.

計 11

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kamiya K, Masuda T, Tanaka S, Hamazaki N, Matsue Y, Mezzani A, Matsuzawa R, Nozaki K, Maekawa E, Noda C, Yamaoka-Tojo M, Arai Y, Matsunaga A, Izumi T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Quadriceps Strength as a Predictor of Mortality in Coronary Artery Disease.	Am J Med. 2015 Nov;128(11):1212-9.
2	Ako J, Morino Y, Okuizumi K, Usami M, Nakamura M.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Japanese postmarketing surveillance of clopidogrel in patients with non-ST-segment elevation acute coronary syndrome, stable angina, old myocardial infarction, and ST-segment elevation myocardial infarction after percutaneous coronary intervention in a real-life setting: the final report (J-PLACE Final).	Cardiovasc Interv Ther. 2015 Oct 8.
3	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Namba S, Kitasato L, Kameda R, Murakami M, Niwano H, Shimohama T, Tojo T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Rivaroxaban Inhibits Angiotensin II-Induced Activation in Cultured Mouse Cardiac Fibroblasts Through the Modulation of NF- κ B Pathway.	Int Heart J. 2015;56(5):544-50.
4	Namba S, Yamaoka-Tojo M, Hashikata T, Ikeda Y, Kitasato L, Hashimoto T, Shimohama T, Tojo T, Takahira N, Masuda T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Long-term warfarin therapy and biomarkers for osteoporosis and atherosclerosis.	BBA Clin. 2015 Aug 12;4:76-80.
5	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Kakizaki R, Nemoto T, Fujiyoshi K, Namba S, Kitasato L, Hashimoto T, Kameda R, Maekawa E, Shimohama T, Tojo T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Teneligliptin improves left ventricular diastolic function and endothelial function in patients with diabetes.	Heart Vessels. 2015 Aug 13.
6	Nabeta T, Inomata T, Iida Y, Ikeda Y, Iwamoto-Ishida M, Ishii S, Naruke T, Mizutani T, Shinagawa H, Koitabashi T, Takeuchi I, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Prognostic significance of beta-blocker up-titration in conjunction with cardiac resynchronization therapy in heart failure management.	Heart Vessels. 2015 Aug 8.
7	Nishio R, Shinke T, Morino Y, Tanabe K, Furuya J, Takizawa K, Ako J, Kozuma K, Hibi K, Ishii H, Hirohata A, Otsuka Y, Otake H, Takaya T, Hirata K.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Early Phase Arterial Reaction Following Drug-Eluting and Bare-Metal Stent Implantation in Patients With ST-Segment Elevation Myocardial Infarction.	Int Heart J. 2015;56(4):389-94.

8	Kitasato L, Shimohama T, Ikeda Y, Namba S, Hashikata T, Kameda R, Sato N, Takeuchi I, Yamaoka-Tojo M, Tojo T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Clinical outcomes of chronic kidney disease patients treated with everolimus-eluting stents (EES) and paclitaxel-eluting stents (PES).	Biomed Pharmacother. 2015 May;72:6-10.
9	Ikeda Y, Inomata T, Fujita T, Iida Y, Nabeta T, Naruke T, Koitabashi T, Takeuchi I, Kitamura T, Miyaji K, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Morphological changes in mitochondria during mechanical unloading observed on electron microscopy: a case report of a bridge to complete recovery in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Cardiovasc Pathol. 2015 Mar-Apr;24(2):128-31.
10	Hashikata T, Tojo T, Namba S, Kitasato L, Hashimoto T, Kameda R, Shimohama T, Yamaoka-Tojo M, Takada F, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Deficiency of creatine kinase in a ST-segment elevation myocardial infarction patient with Kartagener syndrome.	Int J Cardiol. 2015 Mar 1;182:31-3.
11	Nabeta T, Itatani K, Miyaji K, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Vortex flow energy loss reflects therapeutic effect in dilated cardiomyopathy.	Eur Heart J. 2015 Mar 14;36(11):637.
12	Takeuchi I, Fujita H, Yanagisawa T, Sato N, Mizutani T, Hattori J, Asakuma S, Yamaya T, Inagaki T, Kataoka Y, Ohe K, Ako J, Asari Y.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Impact of Doctor Car with Mobile Cloud ECG in reducing door-to-balloon time of Japanese ST-elevation myocardial infarction patients.	Int Heart J. 2015;56(2):170-3.
13	Ikeda Y, Inomata T, Iida Y, Iwamoto-Ishida M, Nabeta T, Ishii S, Sato T, Yanagisawa T, Mizutani T, Naruke T, Koitabashi T, Takeuchi I, Nishii M, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Time course of left ventricular reverse remodeling in response to pharmacotherapy: clinical implication for heart failure prognosis in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2015 Feb 17.
14	Tanno J, Nakano S, Kasai T, Ako J, Nakamura S, Senbonmatsu T, Nishimura S.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine	Increase in ultrasonic intensity of blood speckle across moderate coronary artery stenosis is an independent predictor of functional coronary artery stenosis measured by fractional flow reserve: pilot study.	PLoS One. 2015 Jan 21;10(1):e0116727.

15	Hashikata T, Tojo T, Namba S, Kitasato L, Hashimoto T, Kameda R, Shimohama T, Yamaoka-Tojo M, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Neointimal coverage of zotarolimus-eluting stent at 1, 2, and 3 months' follow-up: an optical coherence tomography study.	Heart Vessels. 2016 Feb;31(2):206-11.
16	Sato K, Fujiyoshi K, Hoshi K, Noda C, Yamaoka-Tojo M, Ako J, Kumabe T.	Department of Neuro Surgery and Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Low stroke rate of carotid stenosis under the guideline-oriented medical treatment compared with surgical treatment.	Int Heart J. 2016 Jan 19;57(1)80-6.
17	Namba S, Yamaoka-Tojo M, Hashikata T, Ikeda Y, Kitasato L, Hashimoto T, Shimohama T, Tojo T, Takahira N, Masuda T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Long-term warfarin therapy and biomarkers for osteoporosis and atherosclerosis.	BBA Clin. 2015; 4:76-80
18	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Kakizaki R, Nemoto T, Fujiyoshi K, Namba S, Kitasato L, Hashimoto T, Ishii S, Kameda R, Shimohama T, Tojo T, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine Department of Rehabilitation, Kitasato University School of Allied Health Sciences	Ezetimibe enhances and stabilizes anticoagulant effect of warfarin.	Heart Vessels. 2016 Apr 6. [Epub ahead of Print]
~				
70				
~				

計 18

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	竹内 康雄	Department of Nephrology, Kitasato University school of Medicine	Curative haploidentical BMT in a murine model of X-linked chronic granulomatous disease.	Inetrnational Journal of Hematology 102(1), 111-20,
2	村野 順也	Department of Nephrology, Kitasato University school of Medicine	Incidence and clinical significance of an anti-moesin autoantibody in small-vessel vasculitis	Kitasato Med J 45, 105-113, 2015
3	翁 千香子	Department of Nephrology, Kitasato University school of Medicine	A new mouse experimental model of focal segmental glomerulosclerosis produced by the administration of polyclonal anti-mouse nephrin antibody.	Kitasato Med J 45, 29-37, 2015
4	竹内 康雄	Department of Nephrology, Kitasato University school of Medicine	A possible clue for the production of anti-glomerular basement membrane antibody associated with ureteral obstruction and hydronephrosis.	Case Reports in Nephrology and Dialysis 31;5(1):87-95, 2015
5	内藤 正吉	Department of Nephrology, Kitasato University school of Medicine	The Glomerular Parietal Epithelial Cell Phenotype Depends On SPARC Levels.	BMC Nephrol. 6:174, 2014

計 5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kawanami A, Nagai M, Nihira T, Nishiyama K.	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Clinicopathological examination of optineurin-immunoreactive inclusions in with sporadic ALS	The Kitasato Medical Journal Mar.2015; 45(1): 21-28
2	Ohta E, Nihira T, Uchino A, Imaizumi Y, Okada Y, Akamatsu W, Takahashi K, Hayakawa H, Nagai M, Ohya M, Ryo M, Ogino M, Murayama S, Takashima A, Nishiyama K, Mizuno Y, Mochizuki H, Obata F, Okano H.	Division of Clinical Immunology, Graduate School of Medical Sciences, Kitasato University and Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine, and Department of Physiology, Keio University School of Medicine	I2020T mutant LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagami-hara family exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3 β signaling pathway.	Hum Mol Genet. 2015 Sep 1;24(17):4879-900.

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hirohata S, Kikuchi H, Sawada T, Nagafuchi H, Kuwana M, Takeno M, Ishigatsubo Y.	Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University School of Medicine	Retrospective analysis of long-term outcome of chronic progressive neurological manifestations in Behcet's disease.	J Neurol Sci; 349(1-2): 143-148, 2015.
2	Tono T, Aihara S, Hoshiyama T, Arinuma Y, Nagai T, Hirohata S.	”	Effects of anti-IL-6 receptor antibody on human monocytes.	Mod Rheumatol 25: 79-84, 2015.
3	Ogawa E, Nagai T, Sakuma Y, Arinuma Y, Hirohata S.	”	Association of antibodies to the NR1 subunit of N-methyl-D-aspartate receptors with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol 26(3): 377-83, 2016.
4	Takayuki Hoshiyama, Yu Matsueda, Toshihiro Tono, Yoshiyuki Arinuma, Tatsuo Nagai, Shunsei Hirohata.	”	Effects of certolizumab pegol on human monocytes.	Kitasato Med J 46: 60-66, 2016.
5	Tatsuhiko Wada, Gakuro Abe, Takeo Kudou, Eisuke Ogawa, Tatsuo Nagai, Sumiaki Tanaka, Shunsei Hirohata.	”	Liver damage in patients with polymyositis and dermatomyositis.	Kitasato Med J 46: 40-46, 2016.
6	Tjensvoll AB, Lauvsnes MB, Hirohata S, Beyer MK, Greve OJ, Kviviik I, Kvaløy JT, Harboe E, G øransson LG, Omdal R:	”	Migraine in patients with systemic lupus erythematosus is associated with reduced cerebral grey matter volume but not with measures of glial activation or anti-NR2 or anti-P antibodies.	Eur J Neurol; 23(4): 780-6, 2016.
7				
8				
9				

～				
70				
～				

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kokubo K, Kurihara Y, Tsukao H, Maruyama N, Kobayashi K, Shinbo T, Hirose M, Kobayashi H.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Effects of increased surface coverage of polyvinylpyrrolidone over a polysulfone hemofilter membrane on permeability and cell adhesion during continuous hemofiltration.	J Artif Organs 18(3): 257-263, 2015
2	Quanjer PH , Kubota M, Kobayashi H, Omori H, Tatsumi K, Kanazawa M, Stanojevic S, Stocks J, Cole T.J.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Secular Changes in relative leg length confound height-based spirometric reference values.	Chest 147: 792 - 797, 2015
3	Akasaka K, Tanaka T, Maruyama T, Kitamura N, Hashimoto A, Ito Y, Watanabe H, Wakayama T, Arai T, Hayashi M, Moriyama H, Uchida K, Ohkouchi S, Tazawa R, Takada T, Yamaguchi E, Ichiwata T, Hirose M, Arai T, Inoue Y, Kobayashi H, Nakata K.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	A mathematical model to predict protein wash out kinetics during whole-lung lavage in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis,	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol 308: L105-L117, 2015.

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Masateru Yashiro ¹ , Sumiyuki Mii ¹ , Ryoichi Aki ¹ , Yuko Hamada ¹ , Nobuko Arakawa ¹ , Katsumasa Kawahara ² , Robert M. Hoffman ³ , Yasuyuki Amoh ¹	¹ Kitasato University School of Medicine, Department of Dermatology, Sagamihara, Japan, ² Kitasato University School of Medicine, Department of Physiology, Sagamihara, Japan, ³ AntiCancer, Inc., San Diego, CA, USA.	From hair to heart: hair follicle stem cells differentiate to beating cardiac muscle cells.	Cell Cycle. 14 (14): p.2362-2366, 2015
2	Satoshi Kajjura ¹ , Sumiyuki Mii ¹ , Ryoichi Aki ¹ , Yuko Hamada ¹ , Nobuko Arakawa ¹ , Katsumasa Kawahara ² , Kensei Katsuoka ¹ , Robert M. Hoffman ^{3,4} , and Yasuyuki Amoh ¹	¹ Department of Dermatology, and ² Physiology, Kitasato University School of Medicine, Minami-ku, Sagamihara 252-0374, Japan; ³ AntiCancer, Inc., 7917 Ostrow Street, San Diego, CA 92111; ⁴ Department of Surgery, University of California San Diego, CA 92103	Cryopreservation of the hair follicle maintains pluripotency of nestin-expressing stem cells	Tissue Engineering Part C: Methods. 21 (8): p.825-831, 2015

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ishiyama H, Satoh T, Yorozu A, Saito S, Kataoka M, Hashine K, Nakamura R, Tanji S, Masui K, Okihara K, Ohashi T, Momma T, Aoki M, Miki K, Kato M, Morita M, Katayama N, Nasu Y, Kawanaka T, Fukumori T, Ito F, Shiroki R, Baba Y, Inadome A, Yoshioka Y, Takayama H, Hayakawa K	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine. Department of Urology, Kitasato University School of Medicine. Department of Radiology, National Hospital Organization Tokyo Medical Center. Department of Urology, National Hospital Organization Tokyo Medical Center. Department of Radiation Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center. Department of Urology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center. Department of Radiology, Iwate Medical University School of Medicine.	Multi-institutional retrospective analysis of learning curves on dosimetry and operation time before and after introduction of intraoperatively built custom-linked seeds in prostate brachytherapy	Journal of radiation research,57(1):68-74;2016 Jun
2	Ishiyama H, Sekiguchi A, Satoh T, Tsumura H, Takenaka K, Kawakami S, Tabata K, Kobayashi K, Iwamura M, Hayakawa K.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Kitasato University School of Medicine. Department of Urology, Kitasato University School of Medicine	Dosimetry of permanent interstitial prostate brachytherapy for an interoperative procedure, using O-arm based CT and TRUS.	Journal of contemporary brachytherapy,8(1):7-16;2016 Feb
3	Nagata Y, Hiraoka M, Shibata T, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Kozuka T, Kunieda E, Saito T, Nakagawa K, Hareyama M, Takai Y, Hayakawa K, Mitsuhashi N, Ishikura S.	Department of Radiation Oncology, Hiroshima University. Department of Radiation Oncology and Image-Applied Therapy, Kyoto University. Japan Clinical Oncology Group Data Center, Center for Research Administration and Support, National Cancer Center. Department of Radiology, University of Yamanashi. Department of Image-Based Medicine, Institute of Biomedical Research and Innovation.	Prospective Trial of Stereotactic Body Radiation Therapy for Both Operable and Inoperable T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0403	International journal of radiation oncology, biology, physics,93(5):989-996;2015.Dec
4				

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Methods of CT dose estimation in whole-body 18F-FDG PET/CT	J Nucl Med. 56(5):695-700. 2015.
2	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Validity of the mediastinum as a reference region to evaluate cardiac accumulation of iodine-123 metaiodobenzylguanidine.	Ann Nucl Med 29(7): 650-7, 2015.
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	荒木 一兵太	一般・消化器外科	Prognostic impact of venous invasion in stage IB node-negative gastric cancer. Gastric Cancer.	Gastric Cancer
2	石井 智	一般・消化器外科	Laparoscopic resection of a small-bowel gastrointestinal stromal tumor(GIST): a case of report	Kitasato med J
3	石井 智	一般・消化器外科	Predictive factors for lymph node metastasis in additional gastrectomy after endoscopic resection of cT1aN0 gastric cancer.	Surg Today
4	牛久 秀樹	一般・消化器外科	A Risk Model for Surgical Site Infection in the Gastric Cancer Surgery Using Data of 790 Patients.	Dig Surg
5	河又 寛	一般・消化器外科	Discrepancies between the K-ras mutational status of primary colorectal cancers and corresponding liver metastases are found in codon 13	Genomics
6	隈元 雄介	一般・消化器外科	Liver Metastasis from Mixed Acinar-Endocrine Carcinoma of the Pancreas: A Case Report and Review of the Literature.	J Liver Clin Res
7	佐藤 武郎	一般・消化器外科	A multicenter phase I study of preoperative chemoradiotherapy with S-1 and irinotecan for locally advanced lower rectal cancer (SAMRAI-1).	Radiotherapy and Oncology
8	中村 隆俊	一般・消化器外科	Laparoscopic Surgery is Useful for Preventing Recurrence of Small Bowel Obstruction After Surgery for Postoperative Small Bowel Obstruction.	Surg Laparosc Endosc PercutanTech
9	西澤 伸恭	一般・消化器外科	Anatomical Knowledge for the Infra-Pyloric Vein Preservation during the Laparoscopy-Assisted Pylorus-Preserving Gastrectomy.	Dig Surg
10	西澤 伸恭	一般・消化器外科	A peripheral primitive neuroectodermal tumor originating from the pancreas: a case report and review of the literature.	Surg Case Rep
11	西澤 伸恭	一般・消化器外科	Retroperitoneal schwannoma between the inferior vena cava and the abdominal aorta resected by laparoscopic surgery.	Asian J Endosc Surg
12	細田 桂	一般・消化器外科	Overview of multimodal therapy for adenocarcinoma of the esophagogastric junction.	Gen Thorac Cardiovasc Surg
13	細田 桂	一般・消化器外科	Potential benefits of laparoscopy-assisted proximal gastrectomy with esophagogastronomy for cT1 upper-third gastric cancer.	Surg Endosc
14	山下 継史	一般・消化器外科	Lymph node ratio as a novel and simple prognostic factor in advanced gastric cancer.	Eur J Surg Oncol
15	山下 継史	一般・消化器外科	Laparoscopic versus open distal gastrectomy for early gastric cancer in Japan: long-term clinical outcomes of a randomized clinical trial.	Surg Today
16	山下 継史	一般・消化器外科	Reduced preoperative serum albumin and absence of peritoneal dissemination may be predictive factors for long-term survival with advanced gastric cancer with positive cytology test.	Eur J Surg Oncol
17	山下 継史	一般・消化器外科	Preoperative administration of polysaccharide Kureha and reduced plasma transforming growth factor- β in patients with advanced gastric cancer: A randomized clinical trial.	Mol Clin Oncol

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	南谷 菜穂子	北里大学病院乳腺甲状腺外科	Clinicopathological Evaluation and Prognostic Analysis in Breast Cancer Patients with Brain Metastasis.	Journal of Cancer Therapy, 2015,6(8):727-734.
2	谷野 裕一	北里大学病院乳腺甲状腺外科	Randomized Controlled Trial of Zoledronic Acid plus Chemotherapy versus Chemotherapy Alone as Neoadjuvant Treatment of HER2-Negative Primary Breast Cancer (JONIE Study)	PLoS One. 2015 Dec 3;10(12)
3	南谷 菜穂子	北里大学病院乳腺甲状腺外科	Prognostic Significance of Promoter DNA Hypermethylation of cysteine dioxygenase 1 (CDO1) Gene in Primary Breast Cancer.	PLoS One. 2016 Jan 19;11(1):
4	菊池 真理子	北里大学病院乳腺甲状腺外科	Epigenetic regulation of ZEB1-RAB25/ESRP1 axis plays a critical role in phenylbutyrate treatment-resistant breast cancer.	Oncotarget. 2016 Jan 12;7(2):
5	小坂 愉賢	北里大学病院乳腺甲状腺外科	Phase II randomized, controlled trial of 1 day versus 3 days of dexamethasone combined with palonosetron and aprepitant to prevent nausea and vomiting in Japanese breast cancer patients receiving anthracycline-based chemotherapy.	Support Care Cancer. 2016 Mar;24(3):

計 5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	岡 徳彦	北里大学医学部心臓血管外科科学	Increased systemic cardiac output improves arterial oxygen saturation in bidirectional cavopulmonary shunt.	Heart Vessels.2015.30(1).56-60
2	北村 律	北里大学医学部心臓血管外科科学	Seventeen-month-long paracorporeal biventricular mechanical support as a bridge to transplantation for severe dilated cardiomyopathy.	J Artif Organs.2015.18(1).92-94
3	池田 祐毅	北里大学医学部循環器内科学	Morphological changes in mitochondria during mechanical unloading observed on electron microscopy: a case report of a bridge to complete recovery in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Cardiovasc Pathol.2015.24(2).128-31
4	北川 敦史	北里大学医学部小児科学	Clinical Utility of the Plasma Brain Natriuretic Peptide Level in Monitoring Tetralogy of Fallot Patients over the Long Term After Initial Intracardiac Repair: Considerations for Pulmonary Valve Replacement.	Pediatr Cardiol. 2015.36(4).752-8
5	田中 佑貴	北里大学医学部心臓血管外科科学	Useful surgical instruments for the resection of subaortic stenosis.	J Thorac Cardiovasc Surg.2015.150(2).421-2
6	柴田 深雪	北里大学医学部心臓血管外科科学	Optimal Graft Size of Modified Blalock-Taussig Shunt for Biventricular Circulation in Neonates and Small Infants.	Int Heart J.2015.56(5).533-6
7	北村 律	北里大学医学部心臓血管外科科学	Impact of the entry site on late outcome in acute Stanford type B aortic dissection†.	Eur J Cardiothorac Surg.2015.48(5).655-61
8	岡 徳彦	北里大学医学部心臓血管外科科学	Norwood Procedure Performed on a Patient With Trisomy 13.	Int Heart J.2016.57(1):121-2
9				
～				
70				
～				

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Nakashima H	呼吸器外科	Prevalent and up-regulated vimentin expression in micropapillary components of lung adenocarcinomas and its adverse prognostic significance.	Pathol Int. 65:183-192.2015/4
2	Sonda D	呼吸器外科	Abnormal branching of the left lingular pulmonary artery diagnosed by three-dimensional computed tomographic angiography in a patient with lung cancer: a case report.	J Cardiothorac Surg. 11:17.2016/1
3	Saito Y	呼吸器外科	Prognostic significance of CpG island methylator phenotype in surgically resected small cell lung carcinoma.	Cancer Sci., 107(3),320-325.2016/3
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Takayuki Imura	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Treatment of nocturnal leg cramps by blockade of the medial branch of the deep peroneal nerve after lumbar spine surgery	Brain Behav 2015 Sep:5(9):e00370
2	Wataru Saito	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Acceleration of callus formation during fracture healing using basic fibroblast growth factor-kidney disease domain-collagen-binding domain fusion protein combined with allogenic demineralized bone powder.	Journal of Orthopaedic Surgery and Research 2015 May 9:10:59
3	Hiroyuki Sekiguchi	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Loxoprofen sodium and celecoxib for postoperative pain in patients after spinal surgery: a randomized comparative study.	J Orthop Sci 2015 Jul: 20(4):617-23
4	Takayuki Imura	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Surgical treatment of an atlantoaxial fracture after a delayed diagnosis in a comatose patient.	Eur Spine J.2015 Nay :24 Suppl 4
5	kentaro Utida	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Enhancement of periosteal bone formation by basic fibroblast-derived growth factor containing polycystic kidney disease and collagen-binding domains from Clostridium histolyticum collagenase	J Tissue Eng Regen Med. 2015 Mar 18 doi: 10.1002/term.2019
6	Kenji Onuma	Orthopaedic Surgery Kitasato University	Total wrist arthrodesis with wrist fusion rod in patients with rheumatoid arthritis.	Eklem Hastalik Cerrahisi.2015 :26(1):41-8
7	Gen Inoue	Orthopaedic Surgery Kitasato University	The prevalence and characteristics of low back pain among sitting workers in a Japanese manufacturing company.	J Orthop Sci 2015 Jan: 20(1):23-30
8				
9				
~				
70				
~				

計 7

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Sato K, Yamada M, Okutomi T, Kato R, Unno N, Fujii K, Kumabe T	Department of Neurosurgery, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa, Japan. Department of Anesthesiology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa, Japan. Division of Anesthesiology & Reanimatology for Patients/Fetuses/Infants Research & Development Center for New Medical Frontiers, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa, Japan. Department of Obstetrics, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa, Japan.	Vaginal delivery under epidural analgesia in pregnant women with a diagnosis of moyamoya disease	J Stroke Cerebrovasc Dis, 24(5):921-4, 2015
2	Sato K, Suzuki S, Yamada M, Oka H, Kurata A, Okamoto H, Fujii K, Kumabe T	Department of Neurosurgery, Kitasato University School of Medicine Department of Anesthesiology, Kitasato University School of Medicine	Selecting an appropriate surgical treatment instead of carotid artery stenting alone according to the patient's risk factors contributes to reduced perioperative complications in patients with internal carotid stenosis: a single institutional retrospective analysis	Neurol Med Chir (Tokyo), 55(2): 124-132, 2015
~				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Inukai M, Hara A, Yasui Y, Kumabe T, Matsumoto T, Saegusa M	Department of Pathology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa 252-0374, Japan; Department of Neurosurgery, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa 252-0374, Japan. Department of Pathology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa 252-0374, Japan. Department of Neurosurgery, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa 252-0374, Japan. Department of Pathology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Kanagawa 252-0374, Japan	Hypoxia-mediated cancer stem cells in pseudopalisades with activation of hypoxia-inducible factor-1 α /Akt axis in glioblastoma	Hum Pathol, 46(10): 1496-505, 2015
2				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	池田 哲也	医学部 眼科学	Pupillary Size and Light Reflex in Premature Infants.	Neuro-Ophthalmology 394:175-178
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 1

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	中山明仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	One hundred supracricoid laryngectomies with cricohyoidoepiglottopexy: do we achieve better local control?	Jpn J Clin Oncol 45(8):732-7 2015
2	落合 敦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Congenital mucocele of the gland Bandin-Nuhn	Oxford Medical Case Reports 12:374-375 2015
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Conditional Survival After Radical Nephroureterectomy for Upper Tract Carcinoma	EUROPEAN UROLOGY
2	Morihiro Nishi	泌尿器科	Laparoscopic pyeloplasty for secondary ureteropelvic junction obstruction: Long-term results	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY
3	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Laparoscopic Retroperitoneal Nephroureterectomy is a Safe and Adherent Modality for Obese Patients with Upper Urinary Tract Urothelial Carcinoma	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
4	Takefumi Satoh	泌尿器科	Nationwide Japanese Prostate Cancer Outcome Study of Permanent Iodine-125 Seed Implantation (J-POPS)	International Journal of Clinical Oncology
5	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Phase I trial of a cancer vaccine consisting of 20 mixed peptides in patients with castration-resistant prostate cancer: dose-related immune boosting and suppression	Cancer Immunol Immunother
6	Ken-ichi Tabata	泌尿器科	A multicenter retrospective analysis of sequential treatment of abiraterone acetate followed by docetaxel in Japanese patients with metastatic castration-resistant prostate cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology
7	TAKEFUMI SATOH	泌尿器科	Enhanced central memory cluster of differentiation 8+ and tumor antigen-specific T cells in prostate cancer patients receiving repeated in situ adenovirus-mediated suicide gene therapy	Molecular and clinical oncology
8	D. Ishii	泌尿器科	Anti-huCD20 Antibody Therapy for Antibody-Mediated Rejection of Renal Allografts in a Mouse Model	AMERICAN JOURNAL OF TRANSPLANTATION
9	T. Satoh	泌尿器科	AZD3514, an oral selective androgen receptor down-regulator in patients with castration-resistant prostate cancer - results of two parallel first-in-human phase I studies	Investigational New Drugs
10	Satoh Takefumi	泌尿器科	L-amino acid transporter 1 may be a prognostic marker for local progression of prostatic cancer under expectant management	Cancer Biomarkers
11	Shinji Kurosaka	泌尿器科	GLIPR1-ΔTM synergizes with docetaxel in cell death and suppresses resistance to docetaxel in prostate cancer cells	Molecular Cancer
12	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	Prognostic value of prior history of urothelial carcinoma of the bladder in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma: results from a retrospective multicenter study	World Journal of Urology

13	Yoshinori TAOKA	泌尿器科	Protein expression profile related to cisplatin resistance in bladder cancer cell lines detected by two-dimensional gel electrophoresis	BIOMEDICAL RESEARCH-TOKYO
14	Masaomi Ikeda	泌尿器科	Different clinicopathological features between patients who developed early and late recurrence following surgery for renal cell carcinoma	International journal of clinical oncology
15	Hideharu Bessho	泌尿器科	Effect of Ang-2-VEGF-A Bispecific Antibody in Renal Cell Carcinoma	CANCER INVESTIGATION
16	Masaomi Ikeda	泌尿器科	Impact of adjuvant chemotherapy on patients with pathological Stage T3b and/or lymph node metastatic bladder cancer after radical cystectomy	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY
17	Hideyasu Tsumura	泌尿器科	Recovery of serum testosterone following neoadjuvant and adjuvant androgen deprivation therapy in men treated with prostate brachytherapy	World Journal of Radiology
18	Kazumasa Matsumoto	泌尿器科	An Open-Label, Randomized Phase II Trial of Personalized Peptide Vaccination in Patients with Bladder Cancer that Progressed after Platinum- Based Chemotherapy	CLINICAL CANCER RESEARCH
19	Masatsugu Iwamura	泌尿器科	Randomized Controlled Study of the Efficacy, Safety and Quality of Life with Low Dose bacillus Calmette-Guerin Instillation Therapy for Nonmuscle Invasive Bladder Cancer	JOURNAL OF UROLOGY
20	Shiho Kaneko	泌尿器科	Incremental Expression of 14-3-3 Protein Beta/Alpha in Urine Correlates with Advanced Stage and Poor Survival in Patients with Clear Cell Renal Cell Carcinoma	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention
21				
~				
70				
~				

計 20

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	岩瀬春子 (Haruko Iwase)	がん研有明病院婦人科 北里大学医学部産婦人科	Clinical significance of systematic retroperitoneal lymphadenectomy during interval debulking surgery in advanced ovarian cancer patients	J Gynecol Oncol, 2015. 26: 303-10
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 1

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	柳澤信之	病院病理部	L-amino acid transporter 1 may be a prognostic marker for local progression of prostatic cancer under expectant management.	Cancer Biomark.
2	一戸昌明	病院病理部	L-type amino acid transporter 1 (LAT1) expression in lymph node metastasis of gastric carcinoma: Its correlation with size of metastatic lesion and Ki-67 labeling.	Pathol Res Pract.
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 2

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小幡進	臨床検査部	Influence of Hearing Inspection Using Headphones and Bone Conduction Vibrator on a Programmable Valve Shunt System	Kitasato Med J
2	小幡進	臨床検査部	Basic study of the new static stabilometry in the sitting position	Kitasato Med J
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

総合計123

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究 機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の総合解説等	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。
初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各科毎に「後期研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。
当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

2 研修の実績

研修医の人数	152.9	人
--------	-------	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	35 年	
竹内 康雄	腎臓内科	教授	26 年	
宮崎 浩二	血液内科	教授	24 年	
廣畑 俊成	感染症内科	教授	35 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	35 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	24 年	
益田 典幸	呼吸器内科	教授	38 年	
西山 和利	神経内科	教授	28 年	
宮岡 等	精神科	教授	34 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	19 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	26 年	
早川 和重	放射線治療科	教授	37 年	
渡邊 昌彦	外科	教授	36 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	30 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	28 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	29 年	
高相 晶士	整形外科	教授	26 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	教授	30 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	32 年	
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	20 年	
庄司 信行	眼科	教授	27 年	
石井 正浩	小児科	教授	30 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	29 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	28 年	
浅利 靖	救急科	教授	29 年	
狩野 有作	臨床検査科	教授	25 年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	27 年	
赤星 透	内科	教授	36 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2.) 現状
管理責任者氏名	病院長 海野 信也
管理担当者氏名	事務部長 熊澤 豊彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	人事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報管理室	
		看護記録	診療情報管理室	
		検査所見記録	診療情報管理室	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	診療情報管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	診療情報管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室	

診療録の管理については、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき電子カルテを整備したうえ、診療情報管理規程を定めて管理している。診療録の病院外への持ち出しは診療情報管理規程等について定めている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第三条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第四條	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	第五條	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七條	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八條	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九條	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部
	第十條	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	第十一條	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究・先進医療支援室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療の質・安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全推進室
職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全推進室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長	熊澤 豊彦	
閲覧担当者氏名	総務課長	新藤 直哉	
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢、用語の定義）安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針医療安全の確保を目的とした改善のための方策医療事故発生時の対応に関する基本方針医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（有・無）・ 開催状況：年 12回・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること全死亡例及び医療事故の報告状況の確認、並びに報告状況が不十分な場合の研修、指導に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年41回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">リスクマネジメント研修会（内部講師・外部講師、全職員対象）リスクマネージャー研修会 （内部講師、リスクマネージャー及び医療安全推進者対象）各種の医療安全研修会 （チーム STEPPS、転倒・転落の防止、一次救命処置、ME 安全管理他）新規採用者研修 （研修医・コメディカルのオリエンテーション時）復職医師・中途採用医師の随時研修、 看護師のフォローアップ研修、その他	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等）	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>制定、改定について：平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、平成26年2月26日付平成28年2月24日付で一部改定</p> <p>・指針の主な内容：院内感染対策に関する基本方針 院内管理体制 院内感染対策のための教育・研修 感染症発生状況報告体制 院内感染発生時の対応 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容： 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 院内感染防止のための情報収集と現場部門への伝達に関すること 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 5 回
<p>・研修の主な内容： 新規採用者、復職者、中途採用者への研修 全職員を対象とした医療安全研修会（平成27年度3回実施） 主に医師を対象としたICTセミナー（平成27年度4回実施） 看護補助、診療アシスタント、ボランティア、奉仕団を対象とした感染対策研修会 院内常駐委託業者を対象とした病院環境衛生研修会 各種防護具等の着脱訓練、N95マスクフィットテスト 手指衛生に関する研修会 その他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <ul style="list-style-type: none">①検査結果速報体制の整備②感染症・食中毒発生報告体制の整備③サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック④針刺し・粘膜暴露事故発生時の対応体制の整備 <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">①「院内感染防止対策の手引き」の発行②「かんせん情報」の発行（平成27年度8回発行）③院内イントラネットに「院内感染防止対策の手引き」「かんせん情報」「抗菌薬感受性率一覧」「抗菌薬使用量」「感染症診療のための臨床分離情報」等を掲載し24時間の閲覧情報提供④広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制⑤ICT活動（毎週水曜日：抗菌薬・血液培養陽性者ラウンド、環境ラウンド）⑥年間を通じた、感染、病原体、抗菌薬に関するコンサルテーション⑦流行感染症に対する予防・対策	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 16回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： ・ 医療安全に係る説明（医薬品） 開催日：2015年4月1日（水） 場所：臨床講義室No. 1 9:00～10:00（内15分） 参加者：復職・兼務医師採用者59名 講師：薬剤部 田村 和敬 （この他5月、7月から1月まで毎月実施） ・ 注射剤の配合変化 開催日：2015年6月23日（火） 場所：会議室No. 1 17:30～18:30 参加者：医師、看護師、薬剤師 10名 講師：薬剤部 佐々木 寿子 ・ 「静脈栄養」～基礎編～ 開催日：2015年10月2日（金） 場所：臨床講義室No. 1, 2 17:30～18:40 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師 61名 講師：薬剤部 本間 雅士 ・ 抗凝固薬の適正使用 開催日：2015年10月16日（金） 場所：臨床講義室No. 1 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師27名 講師：薬剤部 友田 吉則 ・ 医療用麻薬の適正使用 開催日：2016年1月7日（木） 場所：会議室No. 4 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師 9名 講師：薬剤部 国分 秀也 ・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について 開催日：2016年1月8日（金） 場所：会議室1、2 17:30～19:00 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師 48名 講師：薬剤部 富澤 淳 ・ 薬剤による副作用 開催日：2016年1月29日（金） 場所：臨床講義室No. 4 17:30～18:30 参加者：医師、看護師、薬剤師 16名 講師：薬剤部 佐々木 寿子 ・ 抗がん剤の安全対策について 開催日：2016年2月22日（月） 場所：臨床講義室No. 1 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師 27名 講師：薬剤部 菅原 充広	

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有 ・ 無)

- ・ 業務の主な内容 :

医薬品安全使用のための業務手順書に則って医薬品の安全使用が実施されているかを、月1回、病棟担当薬剤師が病棟ごとにチェックシートを用いて確認。

医薬品安全管理責任者はそのチェックシートを1月と6月の年2回確認。

別紙「医薬品安全使用のための業務手順書」目次参照

別紙「医薬品安全使用に関するチェックシート」

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ・ 未承認等の医薬品の使用に関し、使用の状況の把握のための体系的な仕組みを構築し平成 28 年 9 月 1 日より運用開始をしている。

- ・ 医薬品安全管理責任者は医療の質・安全推進室との情報交換・情報収集を毎週実施。

- ・ 医薬品適正使用委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し適正使用に活用。

- ・ 隔月に看護部・薬剤部連絡会を開催し、医薬品安全使用のための情報共有や問題解決について検討。

- ・ 病棟担当薬剤師および外来担当薬剤師が担当部門で薬品に係わるインシデントを感知した場合に速やかに医薬品安全管理責任者まで連絡がいく体制を構築し、薬剤部内で徹底。

- ・ 医薬品安全管理責任者は投薬・注射ワーキンググループのリーダーとして、医薬品の安全使用に関する検討会を毎月開催。

- ・ 処方に関する疑義照会およびプレアポイド事例をまとめ、リスクマネジメント委員会の会議に報告し、医薬品の安全使用の喚起を実施(1回/2月)。さらに部科長会議、診療部会等で報告・説明。

- ・ 休業期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表を年2回更新し、配布およびイントラネットでの参照を可能としている。

医薬品安全
使用のための
業務手順書
2015



北里大学病院
Kitasato University Hospital

目 次

第1章 医薬品の採用	1
1-1. 北里大学病院医薬品採用基準	
1-2. 採用医薬品情報の作成・提供	
第2章 医薬品の購入	5
2-1. 医薬品の発注	
2-2. 在庫管理と伝票管理	
第3章 医薬品の管理	6
3-1. 医薬品の管理（保管管理）	
3-2. 医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）	
3-3. 規制医薬品（麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、劇薬、特定生物由来製品）の管理	
第4章 医薬品情報の収集・管理・提供	16
4-1. 医薬品情報の収集・管理および専門的評価	
4-2. 医薬品情報の提供	
4-3. 医薬品副作用情報の管理	
第5章 処方	24
5-1. 処方オーダー方法	
5-2. 処方オーダー入力時の注意点	
・ 隔日投与	
・ 粉碎指示	
・ 一包化指示	
・ 簡易懸濁法	
・ 処方発行後（診察終了後）の修正・削除	
5-3. 問い合わせが多い処方の具体例	
5-4. 処方時の注意	
・ 名称が類似した医薬品	
・ 連日投与を行わない医薬品	
・ 休薬期間が設定されている経口抗悪性腫瘍薬	
5-5. 注射用抗菌薬投与に関するフローチャート	
5-6. 食物アレルギーと関連のある医薬品一覧	
第6章 指示だし・指示受け	46
6-1. 指示だし・指示受け手順	
6-2. 口頭による指示だし・指示受け手順	
6-3. 指示看護ワークシート・指示注射ワークシート	
第7章 調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給	55
7-1. 処方監査・疑義照会・調剤	
7-2. 調剤薬の交付・服薬指導	
7-3. 薬品交付後の経過観察	
7-4. 注射せんに基づく病棟・各部門への供給	
7-5. 定数配置薬の病棟・各部門への供給	
7-6. 病棟・外来での常備薬の運用	
7-7. 軟膏等略名一覧	
第8章 与薬業務	66
8-1. 与薬基準	
8-2. 経口与薬（胃管からの与薬を含む）	
8-3. 注射による与薬	

8-4.	北里大学病院・北里東病院看護師の静脈注射実施に関する基準	
8-5.	カラーシリンジ	
8-6.	CVポート運用フローの実際	
8-7.	薬物血中濃度モニタリング（TDM）の実施	
8-8.	薬物血中濃度の速報基準（パニック値）対応フロー	
第9章	服薬管理	101
9-1.	薬剤師による病棟薬剤業務	
9-2.	薬学的知見に基づく指導の進め方（入院）	
9-3.	薬剤師による薬剤管理指導	
9-4.	医薬品投与後の経過観察と服薬指導記録作成	
第10章	持参薬の取り扱い	105
10-1.	患者情報の収集・管理・活用	
10-2.	入院時の使用医薬品の確認	
10-3.	持参薬確認手順 13W 病棟の場合	
10-4.	「お薬手帳」の取扱いについて	
第11章	トラブル対応	108
11-1.	注射薬の誤注入時の対応	
11-2.	血管外漏出に注意すべき注射剤について	
11-3.	血管外漏出時・漏出疑い時の処置	
11-4.	副作用報告の方法	
11-5.	副作用情報の参照方法	
11-6.	院内外副作用発現報告システム	
11-7.	麻薬破損・紛失対応	
第12章	緊急時・集中治療領域にて使用する医薬品	120
12-1.	集中治療領域における注射薬調製・投与法（体重 50kg 換算）	
第13章	ハイリスク医薬品	126
13-1.	安全使用において特に注意が必要な主要医薬品	
13-2.	抗がん薬	
13-3.	B型肝炎ウイルス（HBV）の再活性化について	
13-4.	カリウム製剤	
13-5.	ワルファリンカリウム	
13-6.	インスリン	
13-7.	麻薬	
13-8.	向精神薬	
13-9.	筋弛緩薬	
第14章	特殊医薬品	166
14-1.	放射性医薬品	
14-2.	造影剤の副作用について	
14-3.	造影剤の分類	
14-4.	院内特殊製剤	
第15章	各科特別マニュアル	178
15-1.	小児科	
15-2.	手術部門	
15-3.	救急部門・集中治療室	
15-4.	内視鏡部門	
第16章	他施設との連携	184
16-1.	薬 - 薬連携	
16-2.	他施設からの問い合わせ等に関する体制整備	

医薬品安全使用に関するチェックシート

病棟

確認日；平成 年 月 日

担当薬剤師印：

病棟における医薬品の管理	Check
(1) 医薬品安全使用のための業務手順書 ・「医薬品安全使用のための業務手順書」を遵守している。	<input type="checkbox"/>
(2) 医薬品棚の配置 ・類似名称、外観類似の医薬品はなるべく離して配置し、表示に区別をつけ注意喚起できるよう指導・助言を行っている。	<input type="checkbox"/>
(3) 有効期限・使用期限の管理 ・先入れ先出しを原則とし、期限の短い医薬品から使用するよう指導を行っている。また、月1回有効期限・使用期限を確認し、使用予定がなくなった医薬品は速やかに薬剤部に返却するよう指導を行っている。	<input type="checkbox"/>
(4) 保管条件の確認・管理 ・保管条件のある医薬品（温度・湿度・遮光）は、適正な保管方法により管理していることを確認するとともに、保管管理に関して必要な情報を提供している。（冷蔵庫温度 2～8℃）	<input type="checkbox"/>
(5) 医薬品の定数管理 ・適正な配置品目・数量の見直しを月1回行っている。	<input type="checkbox"/>
(6) 規制医薬品：麻薬・覚せい剤原料・毒薬・向精神薬の管理	
a) 麻薬および向精神薬取締法、薬事法等の関係法規と当院の取り決めを遵守して保管・取り扱いを行うよう指導している。	
【麻薬・覚せい剤原料】 管理簿（使用記録）を作成し、麻薬金庫（麻薬保管庫）で保管していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【向精神薬・毒薬】 注射薬は管理簿（使用記録）を作成し、施錠された保管庫で保管されていることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【向精神薬（1種・2種）】 内服薬は管理簿（使用記録）を作成し、施錠された保管庫で保管されていることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
b) 適切な在庫数・数量の決定を行うよう指導・助言している。	
【麻薬注射薬】 病棟看護師の勤務交代時に麻薬管理簿と照合しながら在庫量の確認を行い、管理簿に確認者の記録を残していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
c) 在庫量の確認を行うよう指導・助言している。	
【麻薬注射薬】 病棟看護師の勤務交代時に麻薬管理簿と照合しながら在庫量の確認を行い、管理簿に確認者の記録を残していることを月1回確認している。	<input type="checkbox"/>
【麻薬内服薬・外用薬】 与薬準備時毎に1回服用量、確認者、後在庫数を処方せんに記入していることを確認している。	<input type="checkbox"/>
(7) 特定生物由来製品の管理 ・電子カルテ上でロット番号入力を行うよう指導している。	<input type="checkbox"/>
(8) その他特に安全管理が必要な医薬品の保管 ・特に安全管理が必要な医薬品（要注意薬）の保管に関しては、配置場所を配慮し、さらに必要に応じて注意喚起のための表示を行うよう指導している。薬剤部への請求は最低限とし、オーダが注視された場合は、速やかに薬剤部に返却するよう指導している（カリウム製剤等）。	<input type="checkbox"/>
(9) 処置薬（消毒薬等）の管理 ・品質の確保、誤飲防止、取り間違い防止対策について指導を行っている。	<input type="checkbox"/>
(10) 救急カート ・月1回薬剤師が使用期限および配置状況（表示を含む）、補充不足を確認し、不備があった場合は病棟スタッフに指導している。	<input type="checkbox"/>
医師・看護師などへの情報提供	Check
(1) 新規採用医薬品に関する情報や採用医薬品に関する製薬企業からの使用上の注意改訂情報、回収情報、販売中止情報、包装変更などの各種情報について積極的に情報提供を行っている。	<input type="checkbox"/>
(2) 緊急安全性情報や安全性情報などの重大な医薬品情報について、文書を用いて可能な限り迅速に情報提供および周知徹底を行っている。	<input type="checkbox"/>
患者への与薬における管理・評価	Check
(1) 患者個々の状態に応じた内服管理方法を選択し、確実な与薬を行えるよう、医師・看護師とともに評価・検討を行っている。	<input type="checkbox"/>
(2) 患者個々の状態に応じた調剤様式を選択し、誤服用や飲み忘れを防ぐよう、医師・看護師とともに評価・検討を行っている。	<input type="checkbox"/>

毎月1回確認の後、所定のファイルに保存すること。

薬剤部長確認日；平成 年 月 日 薬剤部長印；

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 223 回 (H27年度実績)
・ 研修の主な内容： ① 新しい医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 ・ 人工呼吸器 ・ 閉鎖式保育器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 人工心肺装置 など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： ① 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検) ② 終了時点検 (作動点検、外観点検) ③ 安全ラウンド点検 (作動点検、使用法確認) ④ 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) ② 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) ③ インシデントに基いた研修会の開催	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副院長（危機管理・医療安全担当）が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門、リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 添付文書の更新への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・薬剤部内には、週 1 回発行されるホットラインに掲載し情報を徹底。その内容に則って調剤監査を行う。病棟担当者もそれをもとに処方監査を行う。・特に重要と考えられるものは医薬品適正使用委員会（2 か月に 1 回開催）で報告。・院内のオンライン医薬品情報は定期的（1 回/月）に更新されるが、周知に緊急を要する場合は更新を待たずに、マニュアルで上書き修正する。 <p>2) イエローレター、ブルーレター発出時</p> <ul style="list-style-type: none">・イエローレター、ブルーレターが発出された場合は、その時点でその医薬品を使用している医師をリストアップし、直接連絡を入れる。・処方時にポップアップで表示。・医師には全員イエローレター、ブルーレターをポストに投函。・各病棟（看護係長、医師カンファレンスルーム）には病棟担当者が配布・説明。・外来は全診察室内に掲示。・イエローレターは、医療安全情報として全職員に回覧し、回覧の有無の確認も実施。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1) 未承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みを構築し平成 28 年 9 月 1 日より運用を開始。</p> <p>2) 運用内規を作成し、平成 28 年 9 月 1 日より施行。</p> <p>・担当者の指名の有無 ○（有）・無</p> <p>薬剤部リスクマネージャー、 薬剤部医療安全推進者</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (○有・無)</p> <p>・規程の主な内容： 「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン（平成27年11月1日制定）」 基本原則、説明の内容、危険性の説明範囲、説明者の条件、同意者の条件、代諾が必要な同意、代諾者の条件、説明時の同席者、説明および同意の取得が困難なときの対応、説明および同意を得る頻度、同意の撤回、説明同意文書等の書式、署名または記名押印、説明同意文書等の保管等、診療録への記録、その他の留意事項</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	○有・無
<p>・活動の主な内容： すべての説明同意文書等の書式について、「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン」に準じて改訂した。 説明同意文書等について、記載漏れ等の確認と指導。 診療録等の記載について、抽出的な確認と指導。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	○有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（1）名 うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>・活動の主な内容： リスクマネジメント委員会の運営に関する業務 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務 医療安全のための職員研修に関する業務 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務 医療訴訟、和解等に関する業務 医療安全管理の適正な実施における疑義による公益通報への対応業務 医療安全監査委員会に関する業務 全死亡例及び医療事故の報告に関する業務 医療安全に資する診療内容及び医療安全の認識のモニタリング業務 他の特定機能病院との相互立入に関する業務 他</p>	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>専従看護師1名はリスクマネジメント委員会の構成員である。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

当院で未実施の手術・手技であって、当院にとって難度が高く人体への影響が大きいと考えられる医療を実施する際の、検討、確認、承認、実施中止、検証事項を定めたもの。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：

未承認新規医薬品等の対象となるもの、使用時の申請方法、使用のフローを規定している
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：

- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

--

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 10 件 （昨年度実績）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 18 件 （昨年度実績）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
報告の実施状況の確認及び確認結果の管理者への報告。実施状況が不十分な場合の職員に対する研修及び指導。
毎月、RST・RRTの活動状況より、死亡症例の報告がなされ、対応についての確認を行っている。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（）（病院名：近畿大学医学部附属病院）・無） 昨年度実績
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（）（病院名：近畿大学医学部附属病院）・無） 昨年度実績
今年度は、埼玉医科大学病院との間で、10月に立入り、11月に立入り受入れを実施する。
- ・技術的助言の実施状況
県内3大学病院（聖マリアンナ・東海・横浜市大）とは、3ヶ月に1度情報交換の場を設け、技術的助言を求め、改善に努めている。

<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<p>・体制の確保状況</p> <p>現場で初期対応後、患者相談窓口引継がれ、患者相談窓口と医療安全管理部門が協働して適切に対応する。</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）
<p>⑭ 職員研修の実施状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>院内の各部門が、全職員対象や一部の部門を対象に、医療提供に必要な知識及び技能の習得を目的に研修会を開催している。</p>
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>医療安全管理責任者は、平成28年6月に医療安全管理者養成講座を受講した。また7月には、大阪大学で開催された平成28年度国公立大学附属病院医療安全セミナーに参加した。</p>

(様式第 8)

北里病発第 28 番-98 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

学校法人 北里研究所
北里大学病院
開設者名 小林 弘祐 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 1 日付けで整備済み

副院長（危機管理・医療安全担当）が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門、リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

平成 28 年 9 月 1 日付けで整備済み

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 1 日付けで整備済み

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

平成 27 年 11 月 1 日付けで整備済み

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 1 日付けで整備済み

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

1. 入院患者が死亡した事実および死亡前の状況は、診療情報管理室より医療の質・安全推進室に提供されている診療録記載内容に基づきすでに確認を行っている。
今回は従業者からの報告と報告内容の確認結果を管理者へ報告することが求められているので、この報告体制を平成 28 年 9 月中に整備し、10 月 1 日より開始する。詳細は次のとおりを予定している。
 - 1) 入院患者が死亡した場合は、死亡診断書もしくは死体検案書の作成にあわせその作成者が死亡確認シート（所定の書式）に必要事項を記載し、医療の質・安全推進室宛提出する。
 - 2) 提出された確認シートは、休診日を除く毎日医療の質・安全推進室より診療録記載内容を確認して、回覧形式にて病院長に報告する。
 - 3) リスクマネジメント委員会では、報告の実施状況及び確認結果を病院長へ報告する。
なお、報告の実施が不十分な場合は職員への研修及び指導を行う。
2. 通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして管理者が定める水準以上の事実及び発生前の状況については、従前より職員からインシデントレポートとして影響度レベルに係らず医療の質・安全推進室に報告がなされ、確認結果をリスクマネジメント委員会で報告しているので、すでに対応済みである。しかしながら、管理者が定める水準を明確にしていないことから、現在管理者とは影響度レベル 3b 以上とすることで調整中であるがこれを平成 28 年 9 月 30 日までに定めることとする。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

平成 28 年 9 月 1 日付けで整備済み

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

平成 25 年 1 月 1 日付けで整備済み

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 27 年 9 月 1 日付けで整備済み

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 27 年 9 月 1 日付けで整備済み

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための
予定措置

平成 28 年 9 月 1 日付けで整備済み

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を
定めた規程を作成するための予定措置

平成 28 年 9 月 1 日付けで整備済み

13. 監査委員会を設置するための予定措置

平成 28 年 10 月 1 日付けで医療安全監査委員会を法人内に設置する。
年度内に委員を委嘱し、平成 29 年 4 月より運営する。委員会は少なくとも年 2 回は開催する。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための
予定措置

私立大学特定機能病院との間で相互ラウンドを毎年行っている。
今年度は、埼玉医科大学病院との間で管理者間の連携の下、実施することとする。
当院が埼玉医科大学病院を訪問する日 平成 28 年 10 月 13 日
埼玉医科大学病院が当院を訪問する日 平成 28 年 11 月 4 日

15. 職員研修を実施するための予定措置

全職員を対象とする研修会は、医療安全に係る項目を取り入れた内容で開催している。今年度はすでに2回開催しており、次回は11月に開催を予定している。

平成29年4月より運営となる監査委員会より、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見があった場合は、その意見に基づく研修会を開催する。

薬剤部門及びME部門等院内の各部門が主催する研修会が頻回に開催されており、今後も定期的に研修会を開催する。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

医療安全管理部門である医療の質・安全推進室が、研修を選定して、対象者に案内する。研修を定期的受講できるよう、平成29年3月31日までに整備する。

なお、今年度は、7月に、副院長（診療担当）および医療安全管理責任者が外部主催の研修会に参加した。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（1）名
 - うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 - うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 - その他 事務職 専従（3）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成28年9月1日配置した専任医師については、院内における人事異動によるもので、配置後当面の間は、医療安全業務以外の業務にも携わる予定であり、これを段階的に軽減して医療安全業務にシフトし、平成30年3月31日を目途に専従化することとする。